

Fed Watching

米国 大雪の影響を受けたが緩やかな景気回復持続（ページブック）

発表日：2010年3月3日（水）

～次回FOMCでは景気・インフレの現状判断と見通しは前回から変わらない見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

豪雪の中、景気は緩やかに回復

F R B（米連邦準備制度理事会）が3日に発表したページブック（地区連銀経済報告）の総括部分では「12の地区連銀管轄地域からの報告によると、2月初旬の豪雪により一部の地区で経済活動が抑制されたものの、経済情勢は前回の報告から拡大を続けた。9つの地区で経済活動は改善したが、大部分で緩やかな改善となった。アトランタ、セントルイス地区では経済活動はまちまちと報告され、セントルイスでは一部の地区で改善の兆しが示された。リッチモンドでは、経済活動は天候の影響により多くのセクターで軟化、あるいは弱いままだった」と2月初の豪雪の影響を受けながらも、経済活動が緩やかに改善していることが確認された。

前回報告の「12の地区連銀管轄地域からの報告によると、経済活動は低い水準のままであるが、前回の報告から経済情勢は緩やかに改善し、そして地域的な広がりがある。10地区で経済活動がいくらか増加あるいは改善した。一方、フィラデルフィアとリッチモンドはまちまち」から、豪雪を考慮すれば、引き続き同様のペースで経済活動は改善していると判断されよう。今回の報告は、2月22日までに入手した情報によりカンザスシティ連銀が取りまとめられ、3月16日のFOMCの資料となる。

ページブック発表直後の市場反応をみると、株式、為替市場は反応薄。10年債利回りは、4時間前に発表された2月ISM非製造業景気指数が市場予想を上回ったことを受け上昇していたため、低下した。

3月16日FOMC声明の景気・インフレの現状判断と見通しは前回と同様に

今回のページブックから判断すると、3月16日のFOMC声明文では、景気・インフレの現状判断は前回からほとんど変更されず、緩やかな景気回復が持続しているとの見方が示されよう。景気、インフレ見通しも1月のFOMC、2月のバーナンキFRB議長の議会証言から変わっていないとみられる。このため、3月16日のFOMCでは「経済状況は長期間の異例な低水準のFF金利を正当化する」との判断が維持され、声明文も前回からほとんど変更されない公算が大きい。

商業不動産部門の不振は持続、金融環境にも大きな変化は見られず

ページブックの詳細をみると、個人消費は、「多くの地区で前回の調査より若干改善したが、一部の地区では2月初めの豪雪で活動が抑制された」と豪雪の影響を受けながらも回復が続いたことが報告された。観光活動は、「ホテル稼働率が一部改善するなど増加、あるいはまちまち」と商業不動産に影響を与えるホテル需要の弱さが指摘された。サービス需要は、「ヘルスケア、ハイテク需要の堅調によって大部分の地区で概ね拡大した」と引き続きヘルスケアとハイテク需要の堅調が示された。

製造業活動は、「大部分の地区で強まった。特に、ハイテク、自動車、金属産業が強かった」と世界的な需要の拡大や在庫調整の進展による拡大が2月も持続していることが確認された。

住宅市場は、「悪天候などによりいくつかの地区で軟化、あるいは弱いままとされたが、多くの地区で改善した」と政府・F R Bによる住宅市場支援策の効果が続いていることが示された。

一方、商業不動産や建設活動は、「多くの地区で、弱いあるいはさらに悪化したと報告された。しかし、一部の地区では僅かに安定し、緩やかな改善の兆しが報告された」と一部を除き商業不動産市場の不振が持続していることが示された。

さらに、「借り入れ需要は全米で弱いままである」と借入側の需要の弱さと、「貸し出し基準は厳格化されたまま」と貸し出し側の融資スタンスが厳格化された状態の継続が指摘された。

物価については、「一部の原材料価格が上昇しているが、インフレ圧力は大部分で限定的なものとなっている。投入コストが上昇しているが、販売価格は競争圧力や限られた価格決定力によって安定している」とインフレは懸念材料ではないことが示された。また、雇用と賃金に関しては、「一部の地区では採用の増加や一時解雇の鈍化が報告されたものの、全米の労働市場は全般的に軟調なままである。その結果、賃金上昇圧力は限定的だった」と雇用の減少持続と賃金上昇圧力の弱さが確認された。

以上